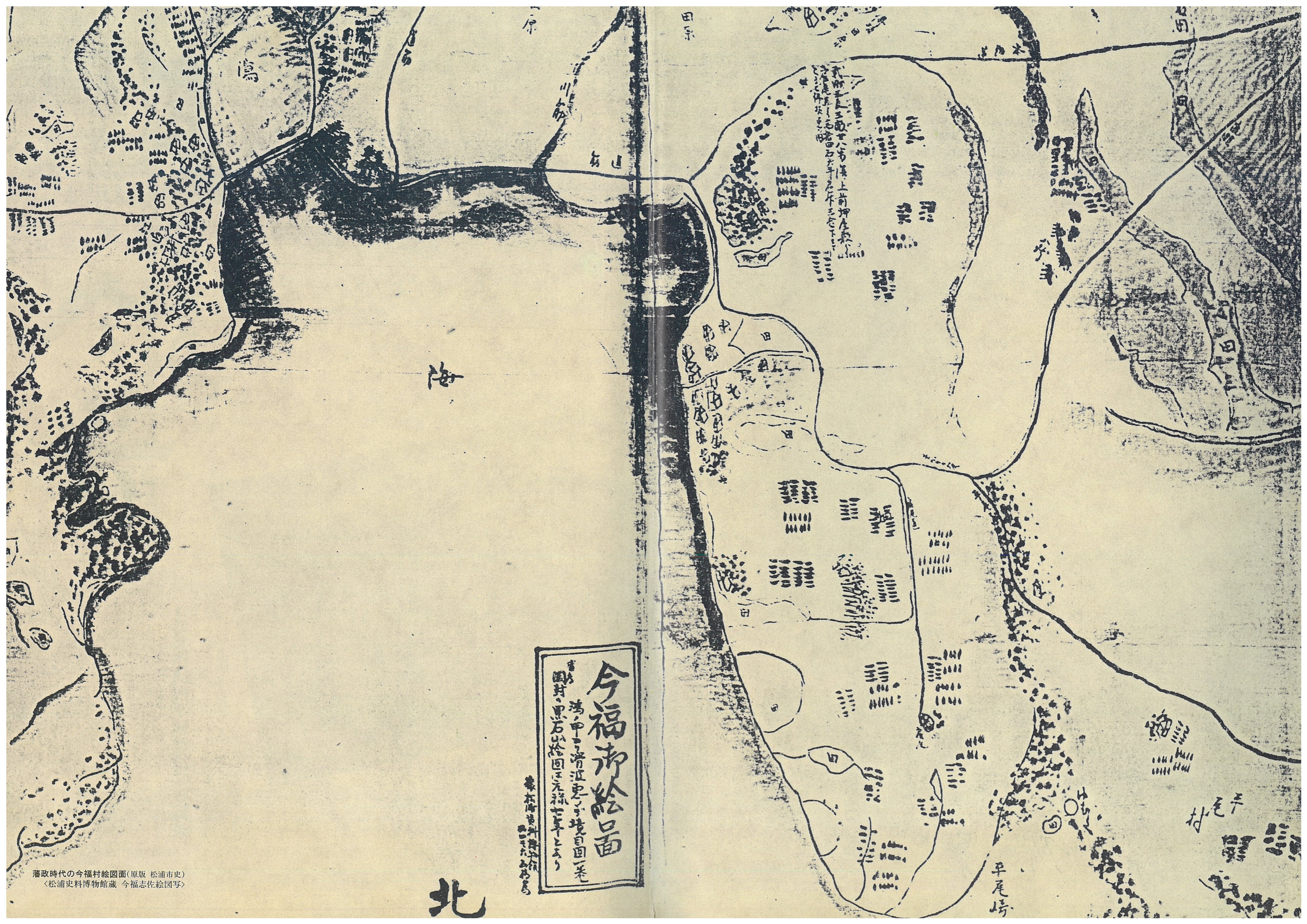


写真が語る

まっさら
今さら
白

1995 松浦市制施行40周年



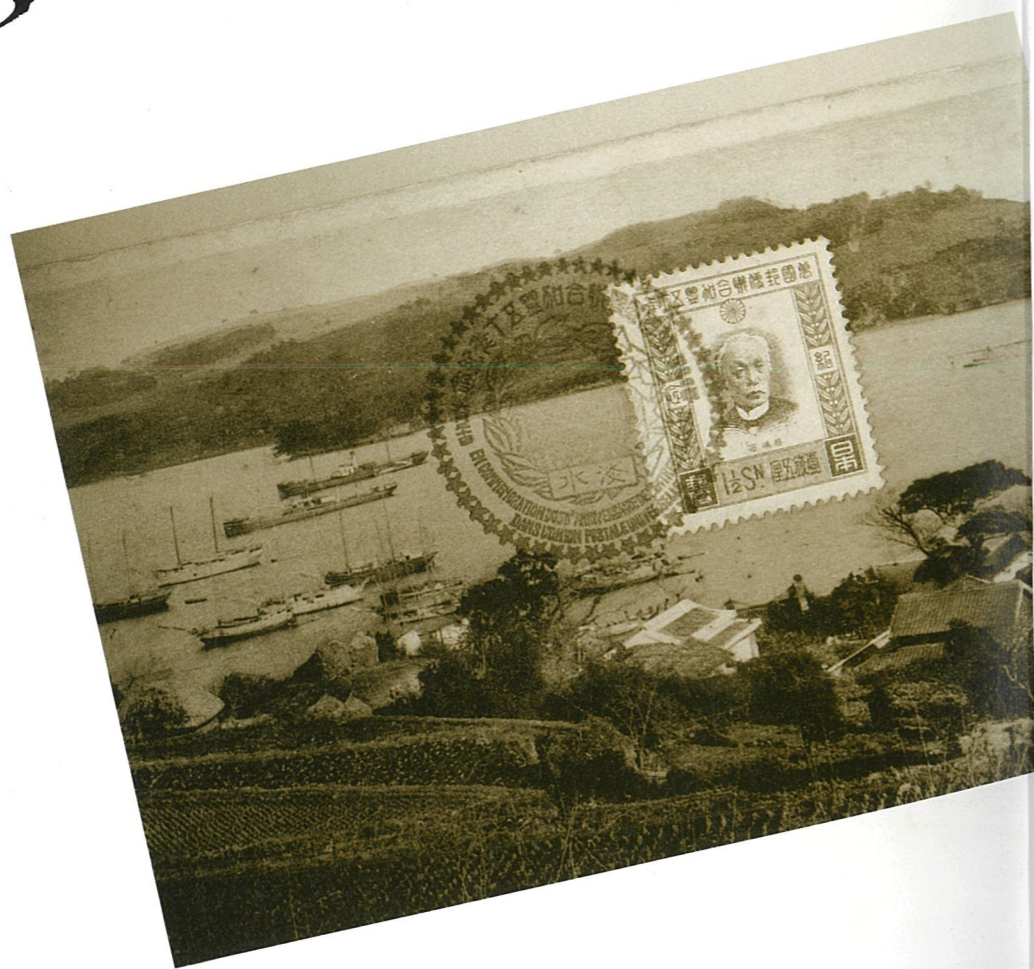
今福寺絵図面
 書 鴻ノ甲ノ清波史ノ地目圖一巻
 圖封ノ黒石ノ繪圖ニ元禄七年トより
 松浦藩史料館蔵

北

藩政時代の今福村絵図面(原版 松浦市史)
 <松浦史料博物館蔵 今福志佐絵図写>

写真が語る
まっくら
へんせい
白

■松浦市制四十周年記念写真集





○発行によせて

松浦市長

山口洋平

美しい天然の良港伊万里湾に面した私たちの松浦市。

本年は、松浦市が誕生して四十年という節目の年にあたります。

この記念すべき年にあたり、さまざまな記念事業を予定しています。

この写真集の発刊もその一つです。

戦前、戦後の混乱期から現在までの栄光と受難の日々を貴重な写真で
編纂したもので、その一枚一枚に先人が経験した貴重なときの流れを感
じとっていただければ幸いです。

私たちは、郷土を愛し、今日の松浦を築き上げられた先輩たちに感謝
し、二十一世紀に向けて夢ふくらむまちづくりに一層邁進しなければな
らないと思います。

終りに、本書の編纂にご苦労いただきました編集委員の皆さま、貴重
な写真を提供していただきました皆さまに心からお礼申し上げます。

平成七年七月

目次

発行によせて

松浦市長 山口洋平

2

むかし昔

4

町並みと風景

6

役所

22

学校

28

風俗

42

産業

56

石炭

68

まつりといのり

84

民族・芸能

92

史跡と文化財

96

名勝

102

戦時色

108

長崎国体

116

あの日あるとき

120

交通

126

防災

132

災害

136

伸びゆく松浦

152

首長

166

名誉市民

167

松浦のあゆみ

168

編集を終えて

172

徐福が辿った道
防人が涙した道

ロマンを紡ぐ道

夢を織り出す道

それは未来へ伸びる道

むかしむかし

「末盧国」という呼称が魏志倭人伝にありますが、これは唐津（呼子）地方に比定されています。でも紀元前三世紀、秦の始皇帝の命を受けた徐福が、不老不死の霊薬を求めて、暫くどとどまったのが不老山だという伝説がありますから、この地方も古い時代から大陸と交流があったと思われまます。

又、景行天皇が景行十八年五月（三四〇）大浜の車瀬に船を着けて上陸され、平戸の志々伎まで足を延ばされたとも伝えられています。

松浦氏の祖、源久が嘉保二年（一一九五）今福に下着し、やがてこの地方一帯を支配するようになり、その子孫がわかれていわゆる松浦党と呼ばれるようになりました。そして、源平の争いや元寇の折には武勲をたてましたし、海外貿易に活躍した事も有名です。

このような、古い時代からの遺跡が市内の各地にあり、遺物も数多く出土しています。



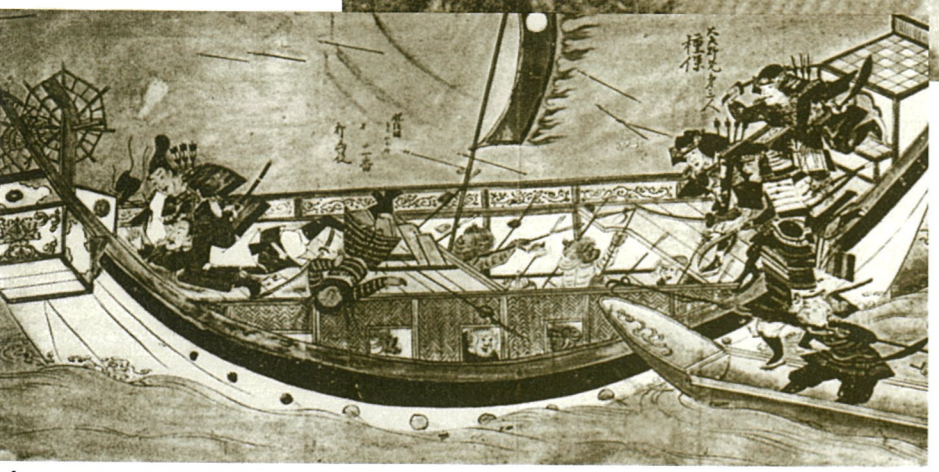
- 1 ●大正末の今福港
- 2 ●池田遺跡出土（カメ棺）
- 3・4 ●蒙古襲来絵詞
- 5・6・7 ●西遊旅譚（司馬江漢）（寛政1年）



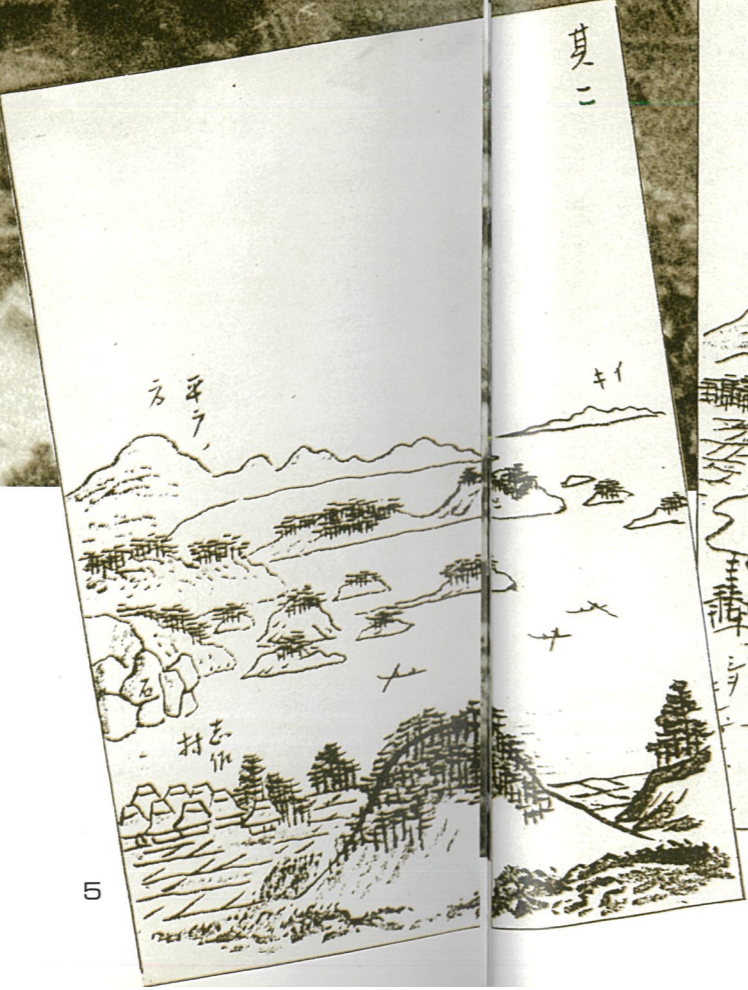
2



3



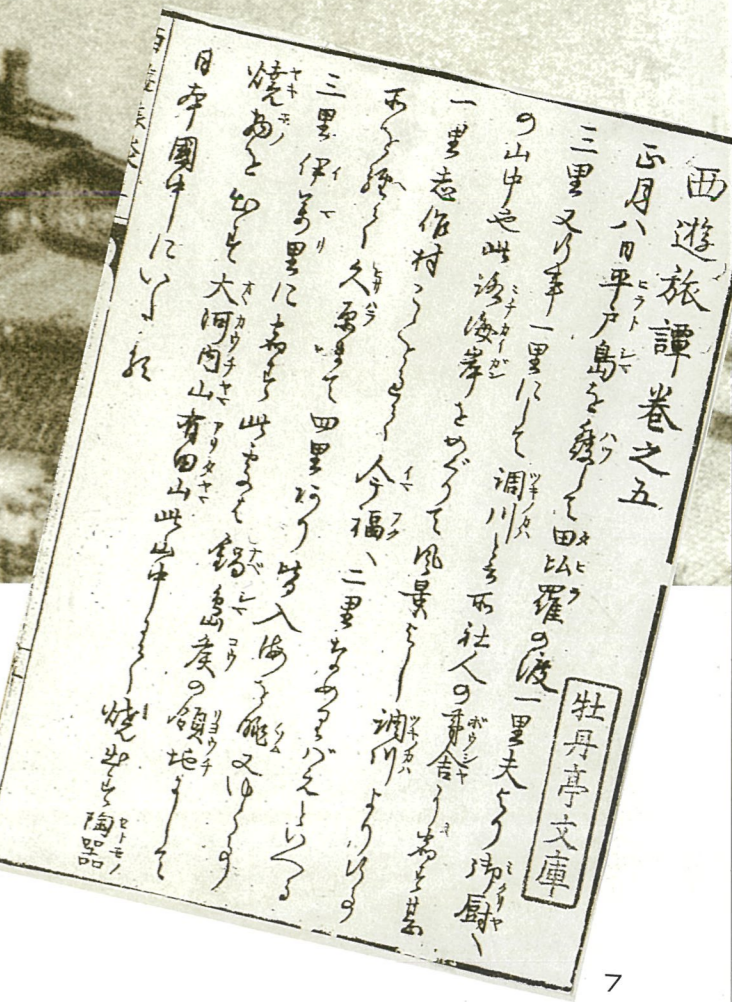
4



5



6



7

- 8●白壁土蔵の通り(今福)
- 9●大雪の調川町
- 10●御厨町駅通り
- 11●住吉の大銀杏(志佐)(昭和32年伐採)



10



9

サーカスの
ジンタが聞こえた

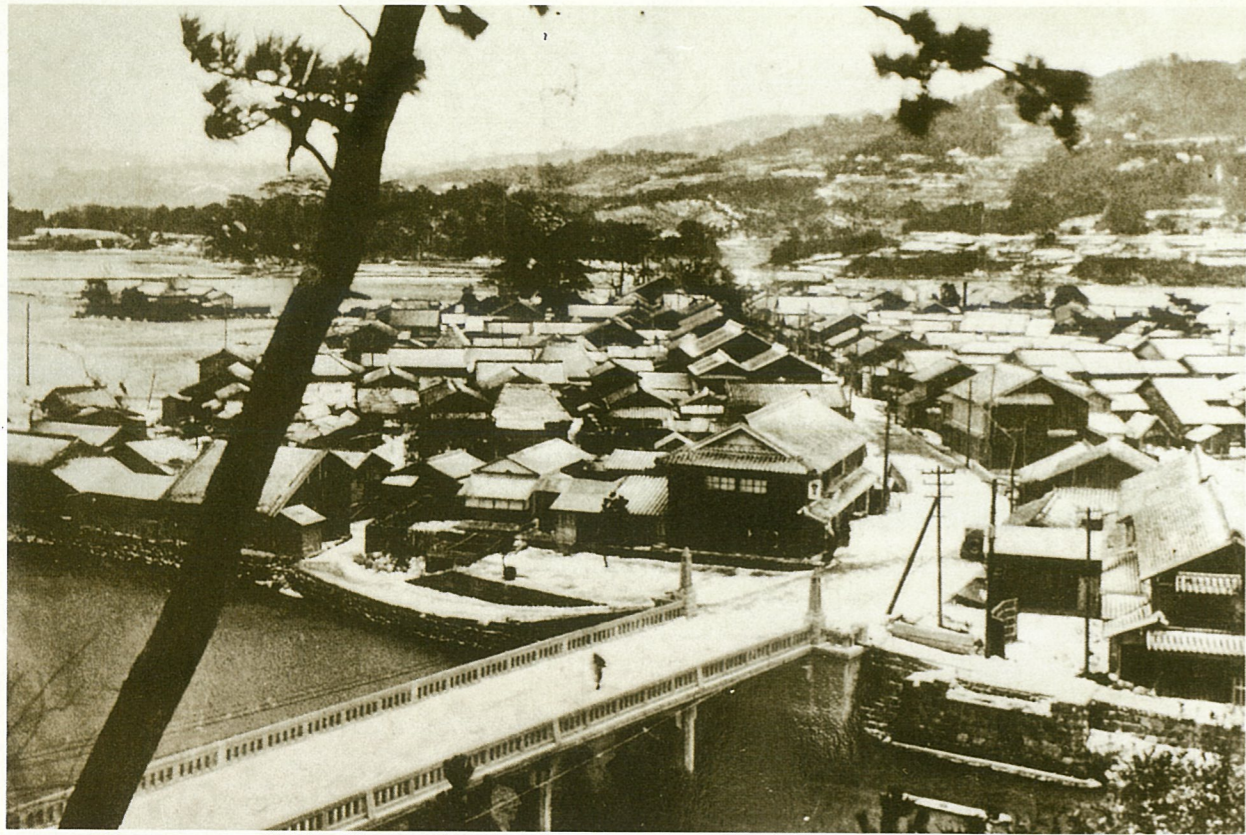


11



所並み
風景

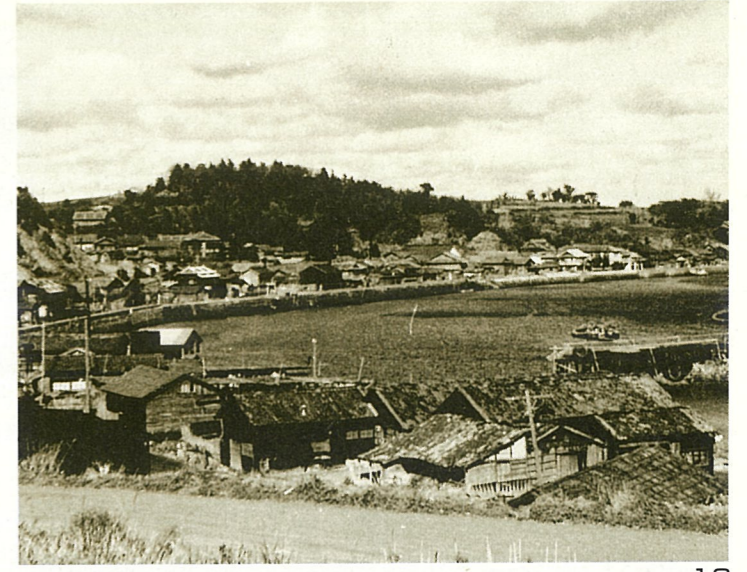
8



17



15



12



18



16



13



19



14

- 12●御厨町海岸通り
- 13●志佐町通り
- 14●円成寺門前附近(志佐)
- 15●青島村落
- 16●調川町本通り
- 17●字津美よりの眺望(志佐)(昭和4年)
- 18●御厨町駅通り
- 19●今福町遠望

笠へ
ぼつとり
椿だった。
山頭火
—昭和七・四・四御厨—



21



20



22



山は笑い
川は歌っていた

- 20●伊万里湾遠望（今福国見）
- 21●すすきの石盛山頂
- 22●芦の新田
- 23●波津崎断崖
- 24●大雪の川

